

セトリイ

瀬戸焼のある暮らしが好きになる。



セトリイ SETOMACHI style book 04

発行 / 瀬戸焼振興協会 〒489-8701 愛知県瀬戸市迫分町64-1 TEL : 0561-88-2807
E-mail.monosho@city.seto.lg.jp Web.http://www.setoyakishinkokyoai.jp
企画・編集 / 日笠真理・岩田舞海 || 写真 / カメイヒロカタ || 意匠 / studio05

窯焼きのごちそう饅井

瀬戸市内に現存する連房式登り窯を目にすると、何連もの窯いっばいに器を詰め、薪で昼夜焚き続けた陶工たちは、さぞかし体力が必要だったろうと想像する。そんなタフネスな“窯焼き”の活力源となったのが、「饅」。やきもの街・瀬戸には、昔から何件もの饅屋があったといえます。

活饅を店頭で捌き、すぐに備長炭の焼き台に乗せてジュワーツ。創業当時から注ぎ足し続けた秘伝のタレに、何度もくぐらせながら焦し焼く。ガス炊きにこだわった白米を丼に盛り、こんがりふっくら焼きあがった饅を豪快にのせて、蓋をちょん。身が肉厚ではみ出してしまふところが、瀬戸の饅の醍醐味です。

すぐに蓋を開けて食べたいところを、少し蒸らすようにして待つその間。目を奪われるのが、悠々とした筆使いと、その濃淡を引き立てる「いっちゃん」で描かれた「瀬戸染付焼」の井。淡くて粋な職人技が光ります。

饅と器、ふたつの「やきもの」を味わいに、瀬戸を訪れてみませんか。



丸フタ井 山茶花：山米製陶所（水峰窯）

藍の濃淡を描く

濃み —だみ—

白磁の素地に、藍一色の呉須で

繊細にも大胆にも描かれる「瀬戸染付焼」。

絵付けの際、素地に輪郭線を施した中を

極太の筆がふくらむほど絵の具を含ませ、

塗り絵のように染めていく技法を

「濃み（だみ）」といいます。

筆先を素地に触れるか触れないかで

すうつと染み込ませるように加減して

濃淡を描いていく様は、職人技の極み。

何代も続く瀬戸染付焼の窯元には、

五十年以上のベテラン職人さんも。

曲面も均一に筆を使い、精緻に描くなど

瀬戸でも稀少な技となりつつあります。



撮影協力：山米製陶所（水峰窯）

釉薬の色と旅をする



心の景色を映す釉の「ゆらぎ」。

色彩、艶感、濃淡…釉薬（ゆうやく・うわぐすり）は、やきものが纏うドレスのようなもの。多様な表現を求める上で、技術的には「調合」という「化学」が礎となる。長石、灰類、銅や鉄などの金属等、原料の組み合わせや割合で種類は無限に、さらに同じ釉薬でも土質や焼成方法などによって色合いは大きく変わる。「自分の中でイメージしていても、実験を重ねるうち、まるで釉薬が意思を持って動いているかのように変化し、新しい色が生み出されるんです」と深田涼さん。レシビに正確でも、窯の温度、水分量、生地の厚さなど微妙な違いで、ゆらぎ。繊細に表情を変えるゆらぎに導かれるまま、その時々自身が映し出されるところに、釉薬のおもしろさがあると語る。

彼女の作品には、ひとつひとつとつ釉薬にまつわるイメージや心象を綴った一文が添えら

旅茶碗：手前から桜マット「四月桜を下から見上げた時」、黄色「八月レモン」、ルチル結晶釉「六月水たまりの世界」／蝶のピン

れる。たとえば、「工房の帰り道に見上げた、夜の空の色」というように。

「その日の気分や季節、ふと思いつく思われる匂いや景色とともに、心に寄り添い、手になじむ器となって、使うひとが幸せになるものづくりがしたいと思って」。

愛されるままに、旅する器たち。

短大卒業後、企業に就職。瀬戸のやきものとは縁のない環境で育った涼さん。たまたま陶芸体験で土に触れる心地よさに魅了され、「陶芸教室の先生になりたい」と瀬戸窯業高等学校へ。なじみのCLUBなどで、友人やDJ、お客さんを

相手に八真夜中の陶芸教室Vを開くなど、自由なアプローチで楽しんだ。

「ふだんやきものとは縁遠い人たちに教えるのは、新鮮で刺激になりました。当時は陶芸家をめざすつもりはなく、手堅く会社勤務を続けながら、気ままに作陶を楽しめればいいのかと思っていたんです」。

そんな彼女の背中を押したのは、契約社員として働いていた法律事務所の上司だった。「陶芸をしている時が何より楽しそうだから、独立して頑張れ」と。そのエールを励みに、会社を辞めて一生陶芸と向き合うことを決心。勤務経験を活かして事業計画書もきっちり作成して開業し、作陶生活に本腰を入れた。

「瀬戸では家業を継いでいるツクリテさんが多いけれど、道具も窯も販路も、やきものへの深い造詣も、私には何もない。ゼロからのスタート。ただ負けん気だけはありました。もう後には引けませんでしたから（笑）」。

二〇一八年、LEXUS「注目の匠」に選ばれた際、選考員が彼女の作品に求めたのが、カラフルな瀬戸焼の「旅」だった。三十六色の異なるストーリーを持つ釉薬がさまざまな景色をテーマに、旅茶碗に取り組む。

「茶道は昔から習ってきたが、八旅する茶碗Vの研究を重ねる中で、茶盃（わん）に心を投影する」という茶の湯の世界を、逆に釉薬に教えて

もらいました。伝統の本質、お点前の意味や素晴らしさをあらためて識ることで、茶道という文化を残してくれた先人への感謝が生まれました」。

持ち前の行動力で、近年はLAでの個展、ミラノサローネウィークにも挑戦。瀬戸から日本から飛び出すことで、軸足を見つめ直す契機にもなったという。

「私にとって釉薬は、自分を誰よりも理解してくれているもの。見てみたい風景に出会わせてくれると同時に、心情をも表してくれるのですね」と愛おしげに釉掛けをする涼さん。鮮烈な原色からニュアンスのある色合いに、釉薬とともに人生のゆらぎを楽しむ姿が、しなやかに清々しい。



DIYで仕上げた、パワフルなカラーに満ちた工房。オリジナルの釉薬は50種以上。



パレットのように食卓を楽しく！ Picture Frameシリーズのフルフラットプレート。



名鉄大曽根駅併設の商業施設「ミュージアム大曽根」(2020年7月オープン)の陶壁<時の樹>を制作。約5300ピースに、街への思いや風景がちりばめられている。

© tokinoki_nikki

深田涼 Fukada Ryo

瀬戸市出身。2010年瀬戸窯業高等学校専攻科陶芸コース卒業、2015年独立。自身でデザイン・制作・販売を行う「Vivid Earthen」を開業。2018年LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 愛知代表。

© ryo_clay

撮影協力

お茶彦

せと銀座通り商店街にただよ、ほうじ茶を炒る香り。大正13年創業のお茶の専門店。「オリジナルブレンドの<彦>、店内の石臼で挽く新鮮なお抹茶や旅持ち用の茶道具もおすすです」と三代目・日本茶インストラクターの河本 篤さん。

愛知県瀬戸市朝日町15

0561-82-4207

http://www.ochahiko.co.jp



いろいろ 遊びたい 集めたい

brooch

「ブローチ」は、女性がつけるもの？
いえいえ、表情多彩な瀬戸焼なら、
男女問わず、バッジ感覚で楽しめます。

愛用の帽子やバッグのアクセントに、
エプロンにつければ楽しい1日に、
ワークシャツにはいくつか重ねづけ。
風合いも表情も組み合わせ次第で、
いつものジャケットやワンピースが
一新したように見えるから不思議。
1つめは自分の好みのものを、
2つめはちょっと変わったデザインで
あれこれ冒険ができちゃうところも
小さなブローチならではの自由さです。

陶磁器製ブローチをつけるコツは…
生地裏に2cm角ほどの当て布をすると、
重みで下を向くのを防げます。



銀彩ブローチ
atelier juca
村井 大介



がもめブローチ
atelier juca
村井 陽子



soMeブローチ
真 薫
加藤 真雪



セッションフリーゼスブローチ

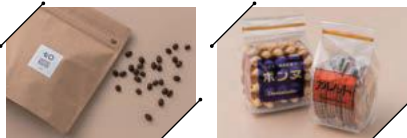


tanKaブローチ





ブラジル、コロンビア、グアテマラ…好みの味を自宅でも、瀬戸焼のマグに、ベルギー人の修道女伝導の素材な焼菓子添えて。



左：自家焙煎コーヒー豆（グアテマラ）
右：「ボンヌ / ガレット」ドミニカン・アトリエ（ドミニコ会聖ヨゼフ修道院）

珈琲は鮮度、焙煎したての深い香りと味わいを愉しむ。
瀬戸市街から赤津に向かう県道沿いに、長屋のように建つ創作スペース「SILVER BARN」。工房やオフィスが入る一角に、二〇一九年四月コーヒー焙煎所&カフェがオープンしました。
「里山の自然、やきものの歴史と文化のあるこの場所が気に入って」と店主の水野直樹さん。産地ごとの個性豊かなスペシャルティコーヒーを豆から自家焙煎し、一杯ずつハンドドリップで淹れてくれます。カウンターで一服を楽しむもよし、テイクアウトで窯めぐりのお供にもどうぞ。

愛知県瀬戸市東拝戸町75
SILVER BARN内 有り
11:00~18:00 火・水曜日
nanamaru.coffee.roaster



今日の一服
70 COFFEE ROASTER
なままる
コーヒー
ロースター

ものづくりの庭から

瀬戸のまちに吹く 風を伝えるひとの ヒトコトコラム

ツクリテの心の拠りどころ、に

せとまちツクリテセンター コーディネーター 吉田 薫さん

ツクリテセンターがオープンして3年以上が経ちました。私がこの町と関わるのは、瀬戸蔵ミュージアムの立ち上げ以来。当時に比べ、馴染みの店や窯屋さんがなくなり寂しい気持ちになる反面、次々と新しいお店やコミュニティが生まれる、わくわくするタイミングでもあり、センターも町の新しい一員として共に歩んできました。瀬戸で活動する多種多様なジャンル、スタンスのツクリテ。彼らをいかにサポートできるか日々悩みつつも、センターを介してツクリテ同士の交流や活動が徐々に醸成され、いくつもの芽がむくむくと芽吹き育つ様子を目の当たりにできる喜びを感じています。今年度はコロナ禍による大きな影響を受けながら、ツクリテたちは新しい道を模索し、前向きに挑んでいます。この先も彼らの心の拠りどころとなり、彼らの進む力になれたなら。そんな思いで今日もサポートにあたっています。



瀬戸市で活動する様々な「ツクリテ」を支援する拠点施設として、2017年開設。ギャラリーとしても活用。



中央が吉田さん。コーディネーターの小坂英雄さん(右)、日笠真理さん(左)と。

もっと知りたい! < 瀬戸焼ノート >

なぜ高台-こうだい-があるの?

HERE



お茶碗をひっくり返した底の立ち上がり部分を「高台」といいます。日本は器を手で持って食べる文化のため、高台があることで持ちやすく、料理の熱が直に手に伝わりにくいという利点があります。

茶道では、お道具の「拜見」の際に茶碗の底を鑑賞します。高台は、作品を浮かせながら見栄えを良くするため、円の他に特徴的な形を付けることもあります。



ワグライダー
輪高台

最も一般的な高台で、安定性に優れ、機能的にも作業的にも扱いやすい形。



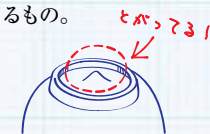
イトキリ
糸切り

轆轤(ろくろ)から切り離す際に、シッピキを引いて切り取った高台部。「糸底」「糸尻」「畳付」ともいう。



トミンコウダイ
兜中高台

削ったあとの中心が、頭巾の上部の尖った形に盛り上がっているもの。



ギョクゾク
碁笥底

碁石を入れる碁笥の底のような高台で、底を内側に向かって削り、上げ底になっているもの。黄瀬戸や志野、楽焼に多い。



ベチコウダイ
撥高台

高台の付け根から下に向けて広がる形が、三味線のばちに似ているためこの名が付けられている。大きめの鉢や手に持たず置いたまま使う器に多い。

ここが Point

- ツクリテの銘や窯印がある。
- 釉薬がかからず土がむき出しになっている部分から、土の色や質感がわかる。(棚板から取りやすいように高台まで釉薬をかけない場合)
- 洗う時に手のかかりがよく洗やすい。
- 乾かす時は高台を上にして置く。(高台から水分が蒸発しやすい)

セトリエ字引き

① いっちゃん桶き

チューブ型もしくはスポイト型の筒に泥漿(でいしょう)や釉薬を入れ、素地に絞り出し、盛り上げて線文を表す装飾技法。「筒引き・筒描き」ともいう。

② 瀬戸の陶土

市内の瀬戸陶土層から採掘される木節(きぶし)粘土と蛙目(がいろめ)粘土は、耐火性が高く可塑性に富み、粘土中に鉄分がほぼ含まれないため、白く美しいやきものをづくり出すことが可能。

③ 陽刻

陶磁器などの表面に、文字や文様が浮か出るよう、周囲を彫ることで立体的に見える装飾方法。篋(へら)や刃物などの道具を用いて、素地や石膏などに彫刻を施す。

ツクリテ FAMILY STYLE

水野家
の
陶房より

ヨセトコ茶会

親の仕事場が、子の遊び場に。

水野家初代・故双鶴氏、二代目教雄氏は、ともに日展等の受賞歴を多数重ね、「瀬戸市無形文化財保持者」に認定されている練り込み技法の第一人者です。その祖父、父のものづくりを見て育った、このみ・智路姉弟。代々継承されてきた練り込み技法や意匠を礎に、智路さんはパンダや鳥、星、力士などPOPなキャラクターをモチーフに、SNSで作画を動画発信するなど、独自の創意とスタンスで活躍中。このみさんは、長年研究し続けてきた「幻の七宝」と呼ばれる「陶磁胎七宝」を復刻し、やはりオリジナルの精緻かつ華麗な意匠で注目を集めています。

代々続くものづくりの家系がめずらしくない瀬戸ですが、水野家もまた、仕事場＝遊び場として育ち、親、子、孫とごく自然に「ツクリテ」の道を歩んできました。

教雄..僕は父からこれをこうしろとか特に教わったこともなく、父の仕事の見よう見まねで練り込みを作っていました。智路..父はなんでも自由に作らせてくれるんですが、それを見て負けじとさらにグレードアップしたものを作ってくれたりしました。それがまたすごいオリエティで(笑)。

このみ..私の場合はまず手芸でした。昔から細かいことが好きで、ビーズなど本格的に道具を揃えたり。たまたま粘土や窯が身近にあり、しかも仕事につながるため陶芸に進みましたが、とにかく無心にもものを作ることが好きなんです。教雄..智路も、レザークラフトだとか陶芸以外にもいろいろ作るのが好きだよ。このみ..そうそう、私の仕事道具もささっと作ってくれたりするんです。

自由に、自分らしさを探求する。

教雄..学生時代は彫刻を学んできましたが、家業を手伝っているうちに練り込みが面白くなって。まずは父の技術を手につけるべく精進するうち、その先によっぱり「自分らしいものを創りたい」という欲求が湧いてきましたね。初めての個展の時に、父から「俺がやろうと思ったことを先をやった」という一言を聞けたときは嬉しかったなあ。今は僕が智路の技を見て、昔の自分より巧い！と感心しています(笑)。

このみ..やっぱ瀬戸のこういう家に生まれ育ってきたこともあり、陶芸でも私にしかできないことがやりたいと思っていたところ、愛知県陶磁美術館で陶磁胎七宝に出会い、



Norio's work

2色以上の粘土を組み合わせ、薄く切って積み上げたり貼り合わせるなどして模様を作り、金太郎飴のように切った断面で作品を作る「練り込み」。精緻な五弁の花は、教雄氏の代表作。

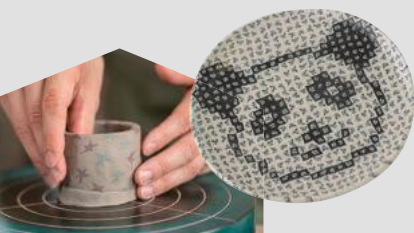
© mizunori



Konomi's work

金属ではなく陶磁器の素地に七宝を施す技法。江戸時代末期から明治時代に主に輸出用としてわずか数年のみ作られていたという。精緻に象られた銀線の中に、釉薬の彩りが華麗。

© konomizuno



Tomoro's work

水野家の技法を継承しつつ、女性や子供にも人気の絵柄を巧妙に練り上げ、オリジナルの意匠を確立。作品から伝わりづらな技法のプロセスを、動画でSNS配信し、海外から多数のフォロワーを獲得。

© tomoro.m

これしかない！と。精緻な仕事は好きですし、これならやきものに興味がない人にも「綺麗！」と伝わる魅力があると感じたんです。教雄..単に珍しいから、変わっているからということだけでなく、自分が好きだと思えることが何より。本当に、いい出会いだったと思いますよ。智路..やきもの好き以外の人にも興味を持ってもらいたいという思いは僕も強くあり、SNSで動画を配信するのもそのため。技法を見ることが作品価値を納得してもらうことはもちろんですが、最近はダーツなどの趣味に関する発信を通じて、別のジャンルからやきものにアクセスしてもらえるような、そんな新しい繋がりにも期待しています。三者三様に、創作を心から楽しむ。そのピュアなパッションが、個性あふれる作品を通じて、新たなファンを紡ぎ出しています。

教雄さん、智路さんは同じ陶房で、精緻なパーツを扱うこのみさんは隣室で制作。作品の感想や意見を尋ね合うことも。



水野智路 練り込み

水野教雄 練り込み

水野このみ 陶磁胎七宝

「瀬戸焼」の窯元組合直販ショップ

2020.6.リニューアルオープン

瀬戸蔵セラミックプラザ III SETO MONO SHOP III



名鉄「尾張瀬戸」駅から徒歩5分。明るく広々とした店内。

「瀬戸のやきもの」を探したい！
産地ならではの品揃えと情報を発信。

せとまちの玄関口となる観光施設『瀬戸蔵』。吹き抜けのアトリウム先のれんが揺れ、北側・南側 2つのゾーンにバラエティ多彩な瀬戸焼が並びます。
愛陶工(愛知県陶磁器工業協同組合)運営の「窯元直販ショップ」としておなじみのスポットが、2020年6月にリニューアルオープン。瀬戸を訪れる人にも瀬戸に暮らす人にもより新鮮に！瀬戸焼の「いま」を発信する<SETO MONO SHOP>として生まれ変わりました。

「POPUP 屋台」で旬のツクリテを特集！
お祝い、おみやげ好適ギフトも充実。

COLLECTIVEゾーン

瀬戸焼の多彩な魅力に出会い、知り、お気に入りを見つけるフロア。

瀬戸焼グランドマーケット 企画展示、特選、釉薬・絵付けなど瀬戸焼の特徴、窯元、アイテムごとにバラエティ豊かにラインナップ。器のコーディネートにフィッティングできるスペースも。

FACTORY SHOP 瀬戸焼の特色、土・釉薬・技法について学べる映像&資料コーナー、窯元・ツクリテごとの仕事やチャレンジにフォーカスした企画展示など。

ACTIVEゾーン

季節や歳時記、縁起物、瀬戸焼のあるライフスタイルを提案するフロア。

POP UP 屋台 旬のテーマやツクリテが発信する企画展、ワークショップ等も開催予定。

ギフトコレクション 日本六古窯として日本遺産にも認定！「瀬戸のモノづくり=SETO MONO」を、贈りたくなるギフトコレクションとして特集。

瀬戸に伝わる特殊技法/デザイン、セト・ノベルティ など。

探したい・見つけた！「モノ」発掘

行きたび新鮮！「コト」発掘



季節ごとのスタイリングで、使い方を提案。



のれんが自印し・招き猫などの縁起物も充実。



瀬戸焼のイロハや窯元情報を集めたコーナー。



織部、御深井など技法や起源をカードで解説。

瀬戸蔵セラミックプラザ SETO MONO SHOP

愛知県瀬戸市蔵所町1-1 瀬戸蔵 1階 ☎0561-89-5758
名鉄尾張瀬戸駅から徒歩5分 📍189台
10:00~17:00 (土・日・祝10:00~18:00)
瀬戸蔵休館日(年末年始・月1回程度の臨時休館)
https://ceramicplaza.aitohko.com
setomonoshop

「瀬戸焼って？」を知る映像や書籍、カード式のくわつわレシペも配布。2・3階『瀬戸蔵ミュージアム』と併せ、より楽しく深く瀬戸焼に触れられるスポットへ。ぜひ足を運んでみてください。

MADE IN NEW SETO

瀬戸の「創り場」から発信

粘土に触れ、陶芸を身近に。

CONERU nendo shop & space



500gのオープン粘土2種「手気軽陶芸を楽しんでみて」と「ビギナー向けに用意したハきほんのセト」が好評。

「尾張瀬戸駅近くに、気軽に陶芸体験をしたり粘土を購入できるなど、やきものづくりに触れ、産地を感じられる場所が必要だと思ったんです」と、副代表の南慎太郎さん。市内でゲストハウス『まさき』、経営する、せとまちの若き担い手だ。
「土」を店づくりの核とし、根っこには、質・探掘にも「恵まれている」

「尾張瀬戸駅近くに、気軽に陶芸体験をしたり粘土を購入できるなど、やきものづくりに触れ、産地を感じられる場所が必要だと思ったんです」と、副代表の南慎太郎さん。市内でゲストハウス『まさき』、経営する、せとまちの若き担い手だ。
「土」を店づくりの核とし、根っこには、質・探掘にも「恵まれている」



店のCONERUは、「土(せと)の創り場(なまき)の窯(カマド)の蔵(くら) + NENDO」(蔵(くら)に由来)



店の前に置かれた焼成窯電気窯が、アーケードの通りを行く人の目を引く。

1kg単位の小口販売にし、その価値を認めてもらうことで、高単価での流通の糸口が開けると考えました」と語る。
手始めに、「まずは粘土を買って陶芸を楽しんでもらう」ため、窯がなくても自宅で焼成できるオープン陶芸粘土に着目。粘土2種と陶芸道具一式をBOX入りにしたハきほんのセトVを販売したところ、即確かな手応えを得た。
陶芸体験はもちろん、地元陶芸学校の卒業生やセミプロの

クラフト作家が、コワーキングオフィスのように会員制でいつでも作業場や窯が使えるシェアスペースとしての運用も視野に入れている。
「さらに、ゲストハウスでの宿泊・陶体験、窯元から粘土メーカー、一般公開されていない鉱山の見学まで、ハ産地まるごとツアーVを組めるのが、他の産地にはない僕らの強みです」と牧さん。瀬戸にしかできない「地産地消」の試みに期待が寄せられている。

左から副代表の南慎太郎さん、デザイナー・講師の中山葉月さん、代表の牧幸佑さん。

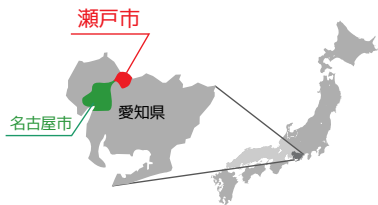


Setolier information

セトリエ

セトリエ

- ①瀬戸+アトリエ=瀬戸のまち全体がやきもの文化を生み出すアトリエという意味。
- ②瀬戸焼の魅力を紹介するフリーペーパー。ツクリテとツカイテをゆるやかに結ぶ新しい世界を提案・発信。



瀬戸焼振興協会公式ホームページ

セトリエ全号の閲覧もできます。

瀬戸焼の歴史や種類、扱い方・器のかたちについて、わかりやすく紹介しています。また、セトリエの最新号～バックナンバーもすべて閲覧・ダウンロードできます。ぜひチェックしてみてください。

<http://www.setoyakishinkokuyokai.jp>



瀬戸焼振興協会
Seto-Yaki Sinkokuyokai

セトリエ公式 Facebook ページ

瀬戸焼の最新情報をチェック！

誌面に掲載しきれないトピックスや、各展覧会・イベント、「瀬戸焼」に関する最新情報を随時更新中。下記URLもしくは「セトリエ」でインターネット検索してご覧ください。皆さまからのコメントもお待ちしております。



<http://www.facebook.com/setolier>

主なセトリエ設置場所 > 瀬戸観光案内所(パルティセと1階)
せとまちツクリテセンター
瀬戸蔵ミュージアム
道の駅瀬戸しなの 他

その他の設置場所はこちらから！

<http://www.setoyakishinkokuyokai.jp/setolier.html>

日本遺産ロゴマーク



日本遺産のまち
瀬戸市

瀬戸市ロゴマーク



セトリエ動物園

ふと見上げた先に…
とら？ねこ？とらねこ？
レアキャラ感満載です。

商店街で探そう！



セトリエ 定期 お届け便

セトリエの最新号を、毎号ご自宅やお店に、無料でお届けする「定期お届け便」のお申し込み受け付けをしています。ぜひセトリエ本誌を手に取ってご覧ください。

- 冊子も送料も無料でお届けします。
- 定期読者にイベントのご案内等をお知らせします。
- ※ このサービスとは別にセトリエを設置または配布していただけるお店や施設も、随時募集中です。瀬戸焼振興協会までご連絡ください。

瀬戸焼振興協会
公式ホームページから
お申し込みください。



愛知県陶磁美術館敷地内の陶芸館では、「作陶」「絵付け」体験をはじめ、薪窯や復元古窯を使った本格的なワークショップにも参加できます。

今回は、「ひもづくり」という技法に挑戦！まずは粘土で底の部分を平たく作り、好みの形に抜きます。次に長細く紐状にした粘土を底との接合部に指でなじませ、一段目を作ります。同様に一段ずつ粘土を糊がわりにして接着し、厚みを調整しながら積み上げていきます。

最後に好きな形に整え、楕円として筋や模様をつけて仕上げ、底を切り離して完成。係員による釉かけ、焼成後に受け取ります。



底になる部分が全体の大ききの基準に、紐は親指程度の太さを目安に。



ひもづくりは自由な形を作れる楽しさがある。(たたらづくりも可能)



焼成後85%ほどに縮むことを想定し、大きさや形を整え、装飾を施す。



親指のふとさ！

愛知県陶磁美術館 < 陶芸館 >

愛知県瀬戸市南山口町234 ☎0561-84-7474

<https://www.pref.aichi.jp/touji/studio>

9:30~16:30 (受付は14:30まで) ※現在は予約制

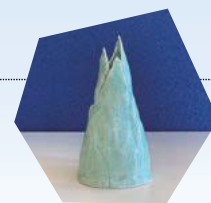
60~120分 休 毎週月曜日・年末年始

利用料金例

作陶：粘土(白土) 1kg、2時間利用の場合... 一般 ¥890・中学生以下 ¥770

※瀬戸産の赤土・白土、釉薬 9種類から選べる

※作品の引取は体験後約1~2ヶ月目までの間



たけのこ、
焼けたよ！

セトヤキギフト

ハレのお祝い・クのごはん

福寄せ小皿



鶴は夫婦円満、亀は金運、そして長寿を象徴する吉祥柄は、「ハレ=お祝い」の食卓が華やぎ、結婚・出産・長寿や開店祝い等の贈り物にもぴったりです。

<陽刻>という技法を用いた小ぶりのオーバル皿は、深みのある緑釉とあたたかなアイボリーの乳濁釉(にゅうだくゆう)が、繊細な彫りを浮かび上がらせ、日常のお惣菜にもなじむ落ち着き感が魅力。ヴィンテージのように末長く使い続けたい器です。



翠窯 -SUIYOU-

愛知県瀬戸市小空町74-2

☎0561-58-3097

<https://www.suiyou-seto.com>

<https://www.suiyou-shop.com>

📞 suiyou2013 📧 suiyou_2013

📍 瀬戸蔵セラミックプラザ(P.12)でもお取り扱いあり

ENGIMONO オーバル SS 鶴 乳濁 / 亀 織部

※ギフトパッケージ・発送も承ります。(翠窯)